

平成28年度 学校評価総括表 伊丹市立笹原中学校

学校教育目標							
重点目標		(1)受容と共感に基づいた生徒理解を基盤に、規律ある学校生活のもと、確かな学力を育む (2)全教育課程を通して高い道徳性と人権意識を育み、保護者と地域との連携のもとで、ともに支え合う仲間づくりを行う					
項目	重点項目	具体的施策		達成目標	自己評価	成果と課題	改善策
安全・安心な学校（総務部）	教育課程	・学校教育目標の実現に向け、全教員が学校運営に参画する。 ・学校の現状や生徒の実態を踏まえた教育課程を編成する。	・学校行事をさらに充実させるために事前学習や事後学習の時間を確保する。 ・7校時学習や、土曜オープンスクールの実施により授業時数を確保し、学力を保障する。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が80%以上になる。	A	明確な校長の方針のもと、教職員の共通理解を図り、学校教育目標の実現に取り組むことができた。その結果、学校や学校行事が楽しいとする生徒アンケートのA、B評価が90%、保護者アンケートのA、B評価が92%となり、「学校への誇り」をもち、毎日行きたいと思う学校になってきた。今後は、次のステップとして、生徒の自主性や主体性を伸ばす取り組みを進めていく必要がある。	・毎週月曜日に7校時学習を設定し、笹中キャリアアップタイムとし、チーム学習に取り組む。学年を越えて教えあい、学びあうことで学びを確実なものにするとともに自尊感情をさらに育てていきたい。
	危機管理の徹底	・交通安全教室や防災訓練を通して安全に生活する事や自分の命を自分で守ろうとする意識を高める取り組みを行う。 ・災害や犯罪から身を守るすべについて、具体的に学習する場を設ける。	・自転車交通安全教室を発達段階に応じて内容を吟味して実施する。 ・年2回の防災訓練に向けた事前学習の徹底を図り、防災意識の高揚を図る。 ・防災や安全に関する情報を随時活用し、実生活とのつながりを意識させるような学習を企画する。 ・インターネットの安全な利用法や情報モラルについては、生徒の実態を踏まえ、関係機関との協力のもと、適切な内容の講習会を実施する。 ・実態に即した防災マニュアルの見直しと作成を行う。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が75%以上になる。 ・年2回避難訓練を実施する。 ・講話や講習などを年3回以上実施する。	B	・自転車交通安全教室や防災訓練、災害図上訓練（DIG訓練）を取り入れた防災学習などを通して、安全に生活しようとする意識が高まった。 ・インターネットなどの安全な利用方法や情報モラルについての講習会を実施し、実生活につなげて理解を促すことができた。 ・心臓蘇生やAEDの使用法の講習会を通して、「命を守り、命を救う一人になる」ことの大切さを学ぶことができた。 ・安全に関する知識の定着や技能の習得には繰り返し学習することや実生活の中で活用してみることが必要。そのため、今後も継続した取り組みを行う必要がある。	・自転車交通安全教室を発達段階に応じて継続して行い、自転車に関する知識を身につけさせる。 ・防災意識の高揚を図るために、防災訓練や防災学習の内容の充実を図る。また、防災学習については、中学校の授業の中で活用できる教材を整備していく。 ・防災や安全に関する情報を収集し、実生活とのつながりを意識させた学習を企画する。 ・防災マニュアルの見直しを実態に即して行う。 ・生徒の実態を踏まえ、インターネットなどの安全な利用方法や情報モラルについての講習会を関係機関との協力のもと実施する。
学力の向上（教育・研究部）	評価・情報システム	・様々な方法で評価資料を収集し、生徒の学力や学習の達成度の評価を適切に行う。 ・デジタル機器を活用し、生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるように教材や指導方法などを工夫し、わかりやすい授業づくりに努める。	・授業の中で評価を細かく収集し、生徒の学力や学習の達成度の評価の積み重ねに努める。 ・ICTを活用することにより、教育効果がより高まる教材や学習内容をしっかりと見極め、効果的な活用方法についての研修を深める。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が90%以上になる。	B	・大半の生徒が評価基準を理解し、学力や学習の達成度を適切に評価できていると実感している。 ・ICTを活用したアンケートの処理等により業務改善を図ることができた。 ・デジタル機器を活用できる環境を整備したことにより、生徒の95%以上が工夫された授業を受けていると感じている。ただ、保護者の評価が83.6%であるので、保護者への啓発が必要である。	・生徒、保護者が納得できるような基準を設定し、シラバスで示す。また、評価資料を収集し、生徒の意欲を高める評価に努める。 ・引き続き、ICTの活用を推進し、その状況が保護者にも伝わるよう授業参観等でアピールしていく。 ・さらなるICT化の推進を目指し、タブレット型端末の活用等を進めていく。
	指導方法の工夫改善	・生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるように、教材や指導法などを工夫し、わかりやすい授業づくりに努める。 ・話し合い活動や発表を積極的に授業の中で取り入れ、学び合う学校づくりを進める。	・毎回の授業でめあてを提示することにより、学習の目標を生徒と共通理解した上で授業を行う。さらに、振り返りを確実に行うことにより学習内容の理解を深める。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進め、特にICTの効果的な活用方法についての研修を進める。 ・話し合い活動を積極的に授業に取り入れる。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が80%以上になる。	B	・各教科の授業では「めあて」を提示し、教師と生徒が学習の目標を共通理解した上で授業を動めた。しかし、振り返りの時間が確保できないこともあり、授業内容の定着が低かった。 ・全教室にプロジェクターを整備したため、各教科の授業でICT機器を活用した授業が増えた。 ・話し合い活動や発表を積極的に取り入れた。しかし、同じ生徒が発表をし、発言することが多くなり、生徒全員が活動することができなかった。	・「めあて」は内容を深めるために研修を行う。 ・振り返りは学習した内容の定着を図るため、必ず行う。授業の終わりに振り返りの時間を確実に取り、生徒に1時間の授業を振り返ったという実感を持たせる。 ・継続してICT機器の活用や実物の提示などを行い、教育効果が高まる教材や使用方法をしっかりと見極め、効果的な活用方法についての研修を行う。 ・グループ学習に目的と役割を持たせる「チーム学習」に取り組む。チーム内での発言を増やせるように発言のしやすい学級作りを行う。 ・効果的な話し合い活動や発表の仕方の基本ルールを決めて、学校統一したやり方を研修する。
	家庭学習の充実	・各教科より進度や理解度に対応した課題を出すことで、家庭学習の習慣化および充実を図る。 ・授業内容の確認や学力向上の成果が見られる課題を作成する。	・家庭内で学習する環境に課題がある場合は、放課後学習や土曜学習などを通して、学校で学習時間を確保し、自主学習の習慣化を図る。 ・生徒が意欲的に取り組み、率先して提出しようと思える課題にするために、提出後の点検をスムーズに行い、次の学習への意欲が高められるような、励みになるコメントや間違いの訂正、疑問点への回答など個別の指導に努める。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が75%以上になる。	B	・家庭学習の習慣化に向けた取り組みを学年や学級便りなどで保護者に知らせるように努めた。 ・放課後学習や土曜学習などにより、学校での学習時間を確保し、自主学習の習慣化を図った。 ・家庭学習の課題や提出物の点検をスムーズに行い、適切な返却を心がけた。 ・授業で工夫されたノートや提出物を良い見本として廊下に掲示し、自主学習の質の向上につなげた。 ・家庭学習の習慣化については個人差が大きく、引き続き家庭との連携を	・学校での自主学習力の育成と合わせて家庭での学習の習慣化を図ることを目指し、保護者との連携を図る。 ・担任と教科担当者が課題未提出者をこまめに連絡・報告して共通理解をしていくことで、課題等の提出期限の徹底を図る。 ・自主学習ノートなどに取り組む。
	特別支援教育の推進	・特別支援学級の生徒だけではなく、通常学級の生徒に対しても、個別の指導計画を作成し、職員間の共通理解をはかる。 ・特別支援教育推進委員会を定期的にひらき、学年間の情報交換を密にする。	・年3回の個別の指導計画作成についての研修会を通して、対象生徒の支援方法の検討や修正・見直し、そして、評価、改善を行う。 ・特別支援教育推進委員会の中で、支援が必要な生徒について情報交換を行い、指導についての助言や見直しを行う。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が80%以上を維持する。	A	・通常学級に在籍する支援が必要な生徒について、アセスメントシートに基づき個別の指導計画を作成するとともに、指導主事を招き、各学年での研修を行うことにより共通理解を図ることができた。 ・作成した個別の指導計画に基づく指導が、徹底できていなかった。	・個別の指導計画の内容を全職員で共通理解し、日々の指導に生かせるように各学年に1部ファイルを作成する。 ・特別支援教育推進委員会であがった情報を学年の担当が学年会等で学年職員に確実に伝えるようにする。 ・個々のケースにおいてうまくいった支援についての事例をあつめ共通理解する。
読書活動の充実	読書活動の充実	・親しみやすい図書館づくりを行い、活字を読み解く力の育成を図る。	・図書館だよりに生徒や保護者、図書ボランティアなどによる図書紹介コーナーを引き続き設け、より親しみやすい図書館づくりに役立っている。	1人あたりの月平均冊数2.5冊 アンケート結果において「A」「B」評価の割合が75%以上を達成したい。	B	・保護者、職員のアンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上を達成した。 ・第2図書室の資料整理を行った。 ・図書館だよりやポスターで図書館まつりの実施を広く知らせることができ、図書館と読書活動のよいアピール活動になった。 ・1人あたりの月平均読書冊数が2.6冊であり、目標を達成できた。 ・生徒のアンケートの評価が73%である。また、学校図書館の利用が図書館まつり以外は低い。生徒が図書館に足を運ぶための工夫が必要である。	・来年度中に第2図書室の資料を整備して、調べ学習に活用できるようにする。 ・1学期に3年の図書委員が新入生に向けてオリエンテーションを行う。

●「チーム学習」をメインにして、先生と生徒がその意識を明確にしてどんな学習を進めていくべきである。
●家庭学習の習慣化は大事であるので進めてほしい。
●全国体力調査によると、2年生の女子の多くが5時間以上もテレビ等を見ていう状況は対応しないといけない。「未来につなげる笹中」を教員が意識的に点検し、継続して取り組んでもらいたい。
●保護者に対して、家庭学習の重要性を理解してもらいたい。無関心な保護者が多いと、学校評価で「わからない」という回答が目立ってくる。「ここでしっかりやっておかないと、高校や大学が難しくなる」と家庭学習の重要性を伝え、親も学校も一緒に向かっていくと、伝わるはずである。口を酸っぱくして続けて啓発し、習慣づけていく必要がある。

豊かな心・健やかな体（生徒指導部）	生徒指導の充実	・「学校生活のきまり」に基づき、教職員が連携して組織的な対応を行う。 ・いじめ防止などのための基本方針に基づき、保護者や関係機関との連携のもと、適正な対応を行う。	・学校の教育方針や指導方針、いじめ基本方針などを教職員が熟知し、深く理解した上で、あらゆる機会を活用して、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるように、組織の一員としての自覚をもって職務に当たる。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。特に保護者アンケートにおいてこれを達成したい。	B	・生徒アンケートにおいて、いじめやトラブルへの対応については82.7%（平成27年度は67%）と高い評価を得ている。個人で対応するのではなく、組織でなるべく対応してきたことが成果に繋がっていると考えられる。一方で、保護者のアンケートでは同じ項目において、76.0%となっており、保護者との連携についてやや課題がみられる。	・生徒指導マニュアルの簡略版を作成し、教員全員が周知徹底をして、どの教員が対応しても一貫とした指導が行えるようなシステムを構築する。 ・学年だけでなく、学校全体として報告、連絡、相談の徹底を図る。また、保護者へのきめ細やかな連絡を徹底する。	●教員は話すことは得意であるが、聴くことが苦手であることが多い。もっと、傾聴スキルを伸ばし、子どもたちが何を伝えたいのかをしっかりと聴くことが必要である。傾聴スキルは日頃から伸ばすようにトレーニングする必要がある。保護者と話をするときにも必要である。 ●キャリア教育では、得意分野を伸ばすことが大事である。どうせやるのなら、とことんやらせてほしい。得意なものをどんどん伸ばすことが大事で、それが勉強を頑張ることに繋がっているはずである。 ●小學校で体育の時間に鬼ごっこをしている、体力が上がったという事例を聞いたことがある。日々のちょっとした工夫で持久力を上げてもらいたい。
	進路指導の充実	・生徒の将来を親身に考え、一人一人に合った進路実現に向けた指導を行う。 ・正しい情報提供を図り、家庭との連携に努める。	・キャリアノートを活用し、自分の特性を見つめ、適切な進路を設計する力を養う。 ・トライやる・ウィークの取り組みを活用し、社会の一員になる意識付けを行う。 ・高等学校のオープンスクールに積極的に参加させる。 ・2年生全員が市立伊丹高校を訪問し、意識を高める。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。特に保護者アンケートにおいてこれを達成したい。	B	・進路指導の項目については、生徒アンケートでは85.2%と高い評価を得ている。また、職員アンケートでは91.0%と高い評価を得ている。このことから学校の取り組みが生徒の理解を得ていると考えられる。しかし、保護者アンケートのみ75.5%と80%(A評価)を下回った。今後学校で扱う進路情報をしっかりと家庭まで届ける必要があると思われる。	・学校での進路情報を家庭まで確実に届ける。そのためにプリントに保護者サイン欄を作り、確実に保護者に目を通してもらうような工夫をする。 ・単に進路指導ではなく、あらゆる学校における活動をキャリア教育の視点で見直し、計画的に推進する。	
	健康な体づくり	・心身の健康の保持増進のため、体力の向上を図るとともに、食育や健康指導を通して、心身ともに、健康な体づくりを行う。	・「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、実行力を育むことをめざして、保健委員会を、さらに活性化し、全校生徒に健康に関する情報を発信する機会を増やす。 ・病気や怪我の予防をはじめ健康増進に関する情報を掲示板やほけんだより、ホームページなどで、引き続き広報する。 ・生徒への個別指導や保護者連絡をとりながら健康管理をすすめるなどの連携をとり、健康増進をめざした取り組みを推進する。 ・給食の導入に伴う衛生面の指導等を行う。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が85%以上になる。 ・ほけんだよりを定期的に発行する。	A	・保健や家庭科の授業を通して病気の予防や健康な体づくりなどの健康増進について生徒に啓発した。また、掲示物やほけんだより・ホームページを通して定期的に健康に関する情報を発信した。今後も生徒や保護者の理解を求め、生活改善に向けた取り組みを継続的にすすめる。 ・保健委員会では、季節や学校行事などに合わせて心身の健康の保持増進を図る取り組みについて協議して実践したり、心肺蘇生法の講習を受けたりした。学校保健委員会では、食物アレルギーについて講話を聞き、クラスに伝達することができた。 ・給食開始に向け、アレルギー対応や食中毒の防止にけた取り組みを進める必要がある。	・授業を通して、健康に関する知識を習得させるとともに、生徒への個別指導を充実させ、健康管理や予防について保護者と連携して、取り組みをすすめる。 ・給食開始に伴い、正しい手洗いの方法などを呼びかけ、徹底し、委員会活動をさらに活性化する。 ・引き続き掲示板、保健だより、ホームページなどを活用して病気の予防をはじめとする健康に関する情報を発信していく。	
開かれ信頼される学校（管理部・渉外部）	開かれた信頼される学校づくり（地域との連携）	・教職員の共通理解のもと、学校の教育方針や教育活動の周知徹底を図り、保護者や生徒の理解を深め、保護者や関係機関との連携のもと、組織的な対応を行う。 ・オープンスクールや参観日、行事などの機会を活用し、広く学校の教育活動を公開する。 ・地域の行事やハロロールなどに積極的に参加するとともに、教職員と生徒、地域ボランティア等との連携により、ボランティア活動を推進する。	・学校の教育方針等を教職員が熟知し、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるように、組織の一員としての自覚をもって職務にあたる。 ・学校からの配布物が確実に各家庭に届き、情報が十分に伝わるように、終礼で必ず配布物の確認を行う。また、クリアファイルやクリップなどを活用し、保護者にその日のうちに必ず渡すことの習慣化を図る。 ・個人情報に配慮しながら、各種行事や講演会、部活動など、学校の様子がより具体的にわかるようHPの更新を行う。 ・学期に1回土曜オープンスクールを実施し、授業参観とあわせて保護者や地域の方々により参加しやすい講演会や説明会などを企画する。 ・PTAを中心に、学校支援ボランティアへの参加を促し、保護者や地域の方々との連携をすすめる。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が85%以上になる。 ・ホームページの月1回以上の更新、学校だよりの月1回以上の発行。 ・学期に1回オープンスクールを実施する。 ・学校の掲示物を随時更新する。	A	・行事等の案内を1ヶ月前には配布するとともに、今年度からメール配信を開始し直前にも案内できるようになったことから、土曜日にオープンスクール等、昨年よりも参加者が増加した。 ・地域のまつりやもちつき大会、公園清掃、校区内の幼稚園や小学校の行事への協力など、部活動や生徒会を中心にボランティア活動に参加し、教職員とともに生徒が地域の一員として活躍する場を設けることができた。また、参加する部活動も増え、教職員や生徒の参加意識も向上し、地域の方からも生徒のボランティア活動の貢献を評価していただけるようになってきた。 ・保護者による学校支援ボランティア（図書、園芸、土曜学習）の活動が定着し、その内容もより充実してきた。 ・学校評議員や学校関係者評価委員会の内容を教職員に周知し、改善に生かすことができた。 ・学校だよりや学年通信等、月1回以上の定期的な発行・配布、写真や生徒・保護者の感想等を多く掲載するなど工夫できた。 ・HPの更新及び内容の充実を十分に図ることができなかった。 ・教職員、保護者の評価と生徒の評価には差がある。生徒会役員や部活動生徒の参加意識や充実感に比べ、一般生徒の参加の機会が少ないことからの結果であると思われる。	・学校の教育方針等を教職員が熟知し、引き続きあらゆる機会を活用して、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明していく。 ・これまでの地域へのボランティア活動を引き続き推進するとともに、学校、または、学年の取り組みとしてのボランティア活動や参加型地域学習などの企画を、保護者、地域と連携しながら検討していく。 ・個人情報に配慮しながら、各種行事や講演会、部活動など、学校の様子がより具体的にわかるようタイムリーにHPの更新を行うため、ホームページの各ページの内容の充実を図り、ページ毎の分担を明確化し、円滑な更新に努める。 ・コミュニティ・スクールの実施に向け、地域や保護者等への内容の周知が必要である。	●学校支援ボランティアとして、PTAと卒業生の保護者で活動しているが、図書が4名、園芸が5～6名である。みんなが活動できる時間帯でやっている。今年は1名しか新規加入がなく、このままではメンバーがいなくなる心配である。土曜日のオープンスクールで呼びかけることもしていった。 ●図書の生徒評価が低いので、ボランティアとしてもなんとかしたいと思っている。毎日の開館などについてもやっていきたい気持ちはあるが、メンバーの数が少ないのが課題である。 ●PTAがなければ、学校行事等が成り立たなくなることが多い。PTA役員をする、学校だけでなく地域とのつながりができる。学校の状況がよくわかるなどのメリットの部分をアピールしていく必要がある。
	教育環境の整備	・清掃活動を活性化し、教育環境を整える。 ・安全点検を徹底し、安全・安心な学校づくりを進める。	・美化委員会を中心として清掃用具の整備を行う。 ・全員清掃へ向けての点検活動を充実させる。 ・安全点検を実施するための時間を確保する。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が85%以上になる。 ・月1回、清掃用具の配置状況を点検する。 ・週1回、清掃状況を点検する。	A	・美化委員会を中心に、清掃用具の修理や補充が機能的にできた。 ・各学年の目標に沿って美化点検をすることができた。 ・月1回の安全点検や校内巡回により、早急な対応ができた。 ・安全点検の基準が担当者により異なるため、曖昧な点検結果になっていることがあった。	・清掃用具の修理や補充がしやすい環境を整える。 ・清掃用具購入一覧を作成し、各学年の整備状況を把握する。 ・美化活動や点検活動の時間を確保するため、専門委員会で活動の見直しを行う。 ・月1回、安全点検を呼びかけるとともに、些細な破壊でもすぐに管理職に連絡することを徹底する。	

学校関係者評価総括

・笹原中学校教職員の各自の目標意識が明確になってきており日頃の行動にもはつきりと表れてきている。そのため、学力の向上や、問題行動の減少など、取り組みの成果が数値にも見た目にも出てきている。

・ただ、朝食や家庭学習などの課題はまだ多い。小学校としっかり連携し、地域も協力しながら、次のステップに進んでもらいたい。

次年度に向けた重点的な改善点

・課題については、校区内の小学校との共通点が多い。生活習慣や体力の育成など、家庭、小学校と連携して、地域ぐるみで取り組むべきである。小中一緒に強化月間などをすると変わってくるのではないかな。

・「何のための勉強か」がわからなければやらされ感が出る。小中一緒にキャリア教育に取り組むべきである。

・数学を伸ばせば、自尊感情が伸びる。自己肯定感が高まり、他の教科も伸びる。人に教えることは効果が高いので、月曜日の「教えあい学習」をどんどん進め、先進的な事例として、経過や意識変化を詳細に記録し、全国に発信してもらいたい。

・先生方はやることが多く大変な状況である。でも、子どもたちは親の言うことより、先生の言うことをよく聴く。笹中生は地域でもみるみる変わってきていると感じている。先生方も大変だろうが、これからも頑張ってもらいたい。地域も、声かきやすい。